

藤沢のり子県議が24日に代表質問に立ち、3時間半、10回にわたって登壇し、切実で緊急な県民要望を具体的に提案し実現を迫りました。知事の後援会幹部が絡む情報公開問題では謝罪と改善を求め、厳しく指摘しました。しかし、自由民主党県議団など他の5会派は、県民要望の実現よりも、利権政治の復活の立場から、知事の失点を追及することに主眼が置かれ県民不在の質問に終始しました。

## 憲法9条守る努力をかさねたい

代表質問の冒頭、知事の政治姿勢として平和の砦・憲法9条を守る先頭に立ち、県民をはげますよう求めました。田中知事は「憲法9条を守るために努力をかさねたい」、「何らかの行動を起こす」と答えました。

## 乳幼児医療費の窓口無料化実現に知事が決意

現在、長野県では乳幼児医療費の還付にあたっては、その都度役所に申請しなくてもよい「自動給付方式」となっています。この方式になってから300円の一部負担金を医療費のほかに払うため、早期の窓口無料化と一部負担金の廃止を迫りました。

知事は「父母からの要望があることは十分承知している。具体的実現に向けて一層の努力をしていく」と窓口無料化への決意を表明しました。もう一方の当事者である市町村に働きかける世論と運動が求められます。

## 児童相談所の一時保護所の教員配置に前向き検討

長野と松本の児童相談所には、児童虐待などにより一時保護所が設置されています。入所の長期化に伴い児童・生徒の教育権を保障する立場から、一刻も早く教員の配置が望まれています。藤沢県議のこの質問に、小林教育長職務代理者は、「もう少し調査して、実現のため前向きに検討したい」と答弁しました。

## 女性職員の管理職への登用阻む「主幹制度」見直しへ

全国最低レベルの県職員の管理職や学校の校長、教頭への女性の比率を高めることも提案しました。そのなかで、女性職員の管理職への登用を阻むシステムとなっている「主幹」制度の見直しを知事が表明しました。

## 知事後援会幹部の情報公開問題で知事の責任を厳しく指摘

知事の後援会幹部のいわゆる「はたらきかけ文書」の存在をめぐって、「不存在」としたものが、その後、公開されるとか、「私的なメモ」であるのかないのかなどの判断が明確でないことが混乱を招いたもので、県政の最高責任者である知事の責任について県民への謝罪と反省を求めました。また、後援会幹部の特別扱いについても質しました。知事は、「不存在というのは適切な決定とはいえなかった。情報公開制度をよりよき機能へ改善し、県政の透明性に努めていきたい。」と答え、後援会幹部の問題は「癒着が疑われることのないように襟を正したい」と答えました。